



# 令和元年度 全国学力・学習状況調査結果報告

平成 31 年 4 月 18 日 (木) に実施された「平成 31 年度全国学力・学習状況調査」の結果  
今年度の調査内容は国語・数学・英語・英語(話すこと)、そして質問紙による生活状況調査

## 1 全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、全国の小学校 6 年生と中学校 3 年生を対象に行われています。  
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、教育指導の充実や学習状況の改善を図ることをねらいとしています。

本年度の調査結果より加西中 3 年は、全国平均と比較して、「数学」は同程度、「国語」はやや低い、「英語」と「英語(話すこと)」は低い結果となっています。

## 2 学力に関する状況について

— 「教科に関する調査」結果から —

### (1) 国 語

出題の趣旨から特に正解率が良好だったものは●、課題があったものは■で表しています。

- 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える
- 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ
- 封筒の書き方を理解して書く
- 話合いの話題や方向を捉える

### (2) 数 学

出題の趣旨から特に正解率が良好だったものは●、課題があったものは■で表しています。

- 図形の平行移動で移動距離を求めることができる
- 数の性質についての問題で、与えられた説明を振り返って考え式変形の目的を捉えることができる
- 連立方程式で式の意味を理解して解くことができる
- 資料を読み取り、その特徴を把握し説明することができる

### (3) 英 語

英語(聞くこと、読むこと、書くこと)

出題の趣旨から特に正解率が良好だったものは●、課題があったものは■で表しています。

- 教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる
- まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる
- 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる
- まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる

英語(話すこと)

出題の趣旨から特に正解率が良好だったものは●、課題があったものは■で表しています。

- 基本的な文法(現在進行形)を理解して、応答することができる
- 適切に強勢を置き、交通手段に関する基本的な表現を理解して、応答することができる
- 与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができる

### 3 生活習慣や学習習慣について

— 「質問用紙」 結果から —

やはり「学力」の基盤となるのは、生活習慣や学習習慣であり、互いに大きな相関関係にあります。生活習慣や学習習慣を調査した質問紙のうち、特徴ある項目について全国・県と比較しました。

#### ●全国平均を上回っている

- ・今住んでいる地域の行事に参加している
- ・本を読んだり借りたりするために、学校図書館や地域の図書館へ行く

#### ■全国平均を下回っている

- ・家で自分で計画を立てて勉強をしている
- ・学校の授業以外の、普段の1日当たりの勉強時間数
- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している
- ・学校の規則を守っている
- ・人が困っているときは、進んで助ける
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

★全国の調査結果の分析から、次のような回答をしている生徒ほど正答率が高い傾向にあります。

- ・家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする
- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり〔規則〕を守っている
- ・いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う
- ・学校の部活動に参加している

### 4 今後の取り組み

教科指導におきましては、今回の結果を各教科会において分析し、正答率の低かった項目については、復習等の機会を設け、中1・2年生の指導にも活かしていきたいと考えています。今後も『基礎学力の定着』に向け、努力目標を「教科嫌いをつくらない授業づくり」とし、引き続き「わかる」「できる」を実感できる授業を目指して、「主体的で、対話的な深い学び」への授業改善に取り組んでいきます。

また、質問用紙のところであげましたように、学力は、その基盤となる意欲や興味・関心、そしてそのものの考え方や生活習慣も大きく関係しています。このような基盤となる部分の人間力のことを『非認知能力』といいます。4月のPTA総会をはじめ、機会あるごとに話をさせてもらっている通り、本校では、これら『非認知能力の育成』を学校教育の重点として取り組んでいます。

加西中では今後も、家庭や地域との連携・協力を得ながら、将来に必要とされる資質・能力に目を向け、これから始まる困難な時代に、自立して自ら未来を切り拓いていける生徒の育成に取り組めます。

『非認知能力』とは、「人間力」「生きる力」＝将来、社会で自立してやっていける力

- ◇目標に向かって頑張る力 …… 新しいことに挑む力・やり抜く力・粘り強い忍耐力・勤勉性  
・柔軟な発想や対応力・好奇心・自主性・誠実性
- ◇人とうまく関わる力 …… 協調性・調和性・開放性・外向性・感謝する力  
・自分を励ます・自分で考えようとする・リーダーシップ
- ◇感情のコントロール力 …… 自制心・情緒安定性・失敗から学んで立ち上がる

※上記は非認知能力の代表的なもの

これまで、学校でも企業でも、偏差値やIQ、学力テストなどの数値ばかりが重視される傾向にありました。しかし“数値”は高いが、人として忍耐力、周りとうまく折り合いを付けられる力、コミュニケーション能力等が低く、社会で柔軟に対応できず挫けたり、巧みに対応できないといった社会人が問題となってきました。逆に、知識や経験が不足していても、『非認知能力』の高い人は、周囲の意見を取り入れる力、学ぶ意欲を持ち続けられれば、次第に出来るようになり、伸び幅が大きいことがわかってきています。近年、『非認知能力』は、将来の所得やキャリアの成功にも影響すると多数の研究結果で指摘されています。